

令和4年6月27日
港湾局計画課企画室

“みなと”が呼び込む ヒト・モノ・仕事 ～「令和4年版 港湾投資効果事例集」を作成～

サプライチェーンのグローバル化の進展により、島国日本における港湾の役割はますます重要になる中、港湾への投資は、新たな産業誘致や地域産業の再生、雇用創出、更なる民間投資の促進を誘発するなど、地域の発展や企業の国際競争力を高め、日本経済の成長を牽引しています。

今般、こうした地域の産業、経済、安心を支えている港湾の一部を紹介する事例集を作成しました。是非ご覧頂き、普段私達があまり意識することのない港湾が、暮らしや経済にどのような影響を与えているのか、ご興味を持って頂ければ幸いです。

1. 我が国港湾の特徴について

我が国の港湾は、貿易量の99.6%が経由しているほか、港湾・臨海部には物流・産業機能が高密度に集積し、全国製造品出荷額の約46%にあたる約150兆円が出荷¹されているなど、日本の礎としての役割を果たしています。

コロナ禍において、世界的にコンテナ物流の混乱が生じ、国内外の物流や産業に影響が及ぶなど世界の社会経済情勢が大きく変化する昨今、海外との結節点である港湾は、安全で豊かな暮らしを支えるサプライチェーンの拠点としてその重要性が益々高まっているところです。

2. 投資効果事例集の掲載内容について

全国各地の39港湾において、港湾投資による効果を紹介した事例集を作成しましたので、別紙にその抜粋を紹介します。

本事例集の全内容は、国土交通省港湾局ウェブサイトをご参照下さい。

https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk3_000038.html

【掲載港湾】

釧路港、苫小牧港、八戸港、釜石港、仙台塩釜港、相馬港、青森港、秋田港、酒田港、小名浜港、茨城港、横浜港、新潟港、伏木富山港、金沢港、清水港、名古屋港、四日市港、津松阪港、舞鶴港、新宮港、神戸港、姫路港、水島港、浜田港、広島港、徳島小松島港、三島川之江港、高知港、東予港、須崎港、松山港、博多港、三池港、八代港、細島港、志布志港、那覇港、平良港

【問い合わせ先】

港湾局 計画課 企画室 ともなが かまたに あらかき
友永、鎌谷、新垣

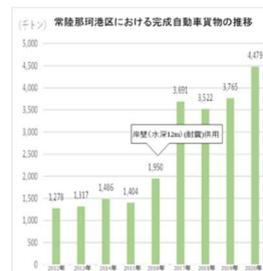
TEL: 03-5253-8111(内線:46343) / TEL 03-5253-8670(直通)

FAX: 03-5253-1650

¹ 港湾所在市区町村における製造品出荷額 出典:工業統計表(地域別統計表)2020年

例1) 地域の産業を支える茨城港

新たな国際物流ターミナルを整備することにより、完成自動車貨物の取扱量が約3倍に増加。北関東地域の玄関口、経済活動を支える輸出拠点として機能。



設備投資等効果 (2006~2020年)

- ・民間企業等の投資額 : 約1,690億円
- ・民間企業等の新規雇用 : 約2,200人

例2) 地域の経済を活性化する相馬港

港湾インフラ整備及び相馬・福島道路整備による物流機能の強化により、鋼材加工メーカーやコメの低温倉庫が立地するなど、相馬港臨海部エリアでの約 2,140 億円の民間投資や約 170 人以上の雇用創出の実現に貢献。



例3) 地域の安心を守る須崎港

津波被害軽減のため防波堤を整備。これにより、市街地における津波による浸水面積が縮減されるほか港内静穏度が向上し、立地企業の稼働率も向上。



市街地における津波による浸水被害を軽減することが可能となり、家屋等の資産に対する減災効果が期待できる。

※2想定：昭和南海地震クラス(M8.0)の場合